



営農情報

第74号 平成30年8月2日

「あまおう」8月の管理

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

10a 当たり収量 5t 以上を目指しましょう

現在の苗の状況と気象の経過

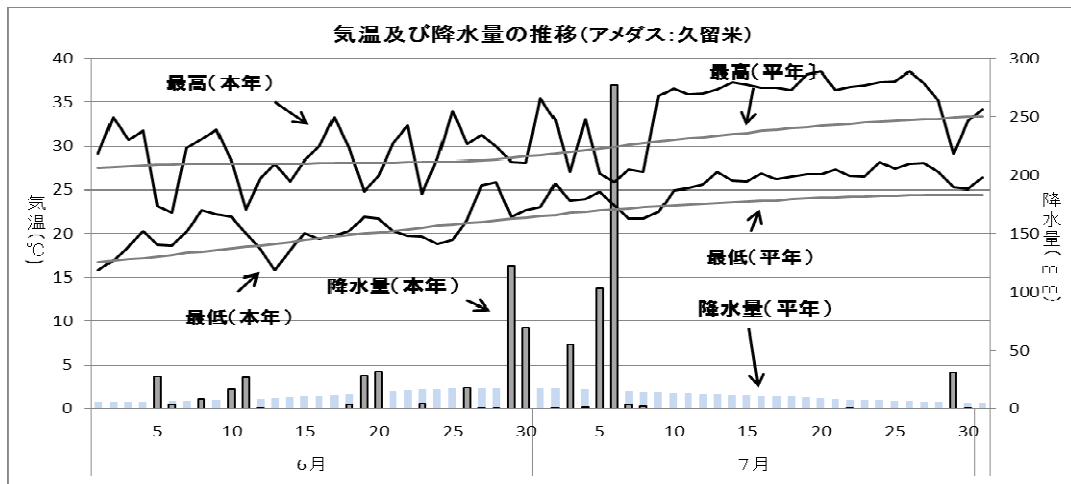
【生育概況】

育苗前半は、大雨・高温の影響により、根傷みや輪斑病が発生し、葉の展開が遅くなっている苗が多く見受けられました。7月下旬以降、展葉は回復傾向にあります。例年に比べると根量が少なく、やや充実不足の苗質となっています。

【病害虫発生状況】

7月上旬頃より炭そ病や萎黄病の病斑が散見されています。6月から7月にかけて気温が高く推移した影響もあり、現在も猛暑が続いており、今後発病株の増加が懸念されます。また、7月上旬にカキノヒメヨコバイによる被害や輪斑病が多く発生しました。現在は、ハダニ類やアブラムシ類の発生も見られます。

図1 【気象の経過】 (アメダス久留米より)

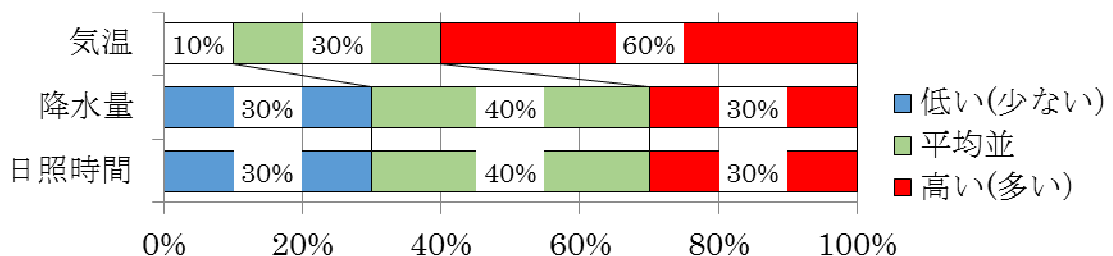


気象予報と今後の見通し

【気象予報】

福岡管区气象台が発表した1か月予報は次のようになっています。

- 1か月予報 (九州北部地方 予報期間: 7月28日~8月27日 発表日7月26日)



【今後の見通し】

気温は平年より高く、降雨量、日照時間は平年並の予報です。

育苗期管理のポイント

[ポイント]	[対 策]
①花芽分化を遅延させない	①寒冷紗で被覆することで、苗の温度を下げる。 被覆する時期 (株冷) : 株冷入庫前 (夜冷) : 処理期間中(但し、日中35℃以上の高温になる場合) (普通ポット) : 8月下旬から
②育苗期後半に窒素切れさせない	②窒素の効き具合を観察して、不足している場合はかん注や葉面散布によって追肥を行う。
③炭そ病、疫病の発生防止	③定期的な薬剤散布、発病株とその周辺株のほ場外への持ち出し。

育苗管理

【 作型 】

- クラウン径10mm以上の充実した苗が目標。クラウン径が10mm未満の苗は、無理して早い作型にせず、苗の充実を優先させる。

表1 「あまおう」の作型別、処理期間と定植日及び収穫開始の目安

作型	入庫	出庫	定植予定日	陽光処理	収穫開始
株冷Ⅳ型	8月27日	9月17日頃	9月17日～	2回	11月中旬
株冷Ⅴ型	8月31日	9月20日頃	9月20日～	1回	11月下旬
夜冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	—	11月上～中旬
夜冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日	—	11月中旬
普通ポット			9月20～25日	—	12月上～中旬
普通晩期(厳寒期安定出荷を目的)			9月26～28日	—	12月下旬

【 施肥 】

- 根傷みしている場合は培土への追肥を控え、根が回復するまで葉面散布を行う。
- 作型に応じて最終追肥時期を決め、計画的に施肥を行う。

表2 液肥の最終追肥時期の目安

作 型	3.5寸鉢	3寸鉢
株冷Ⅳ型 (8月25～27日入庫)	8月 8日	8月12日
株冷Ⅴ型 (8月28日～9月1日入庫)	8月15日	8月20日
夜冷Ⅲ、Ⅳ型 (8月中下旬処理開始)	処理 10日前	処理 5日前
普通ポット	8月30日	9月5日

※ポットが小型なほど、薄い濃度で間隔を短くし、肥料が切れすぎないようにする。

【 葉かき 】

- 1回当たりの葉かきの数は2枚以内とし、葉かき後の葉数は3.5枚程度となるようにする。
- 葉かき作業直後は、「炭そ病」の予防散布を必ず行う(傷口からの感染防止)。

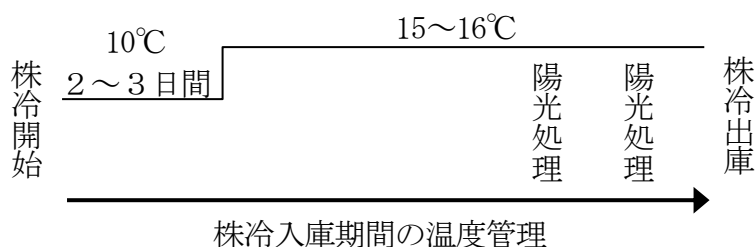
表3 最終葉かき時期の目安と葉数

作型	最終葉かき時期と葉かき後の葉数
株冷	入庫10日前に3~3.5枚
夜冷	処理開始5日前に3~3.5枚
普通ポット	8月30日頃に3~3.5枚

【 低温処理 】

○ 株冷処理

- 株冷処理の間に苗が消耗するため、充実した苗を使用する。
- 株冷入庫時に葉柄中の窒素濃度が25~50ppmになるよう、肥培管理を行う。
- 冷蔵庫内の湿度に注意し、湿度90%以上になるようにする。特に、冷風が直接当たる部分は乾きやすいので、ダンボールや厚紙で風よけをする。



● 陽光処理

- ① 株の消耗を抑えるため、晴天日に苗を庫外に出し、日光に当てる。入庫15日前後に1回目を行い、その後2~3日間隔で計2~3回程度行う。
- ② 出庫時間は1日8時間以内とし、乾燥しないようにかん水をし、株の温度が下がった夕方（午後6時頃）に再入庫する。（冷蔵庫内の温度上昇を防ぐため）

表4 株冷入庫10日前の体内窒素濃度による管理

体内窒素濃度	対 策
25ppm以下	葉面散布 2回：OKF-1 1,000倍、メリット青 500倍など
25~100ppm	葉面散布 1回：OKF-1 1,000倍、メリット青 500倍など
100~250ppm	かん水のみ
250~500ppm	PK剤の葉面散布 1~2回 入庫2~3日前に試験紙判定で100ppm以下になっているか再調査する
500ppm以上	遅い作型に変更する

○ 夜冷処理

- 処理期間中に肥料切れしないよう、処理開始時には150ppm程度の体内窒素を確保する。
- 入庫時の庫内温度は13℃±2℃とする。
- 入出庫時間の目安は、午前10時に出庫、午後6時に入庫とする。気温が高い場合、入庫が早いと庫内の温度が下がりにくいため、入庫時刻を遅くする。
- 処理期間中には、かん水や薬剤散布は行うが、摘葉はしない。

本田準備

例年、8月中旬以降の天候が安定しないため、早めに準備しましょう。

【 畝立て 】

- 畝は、根が張るスペースを確保し排水性を高めるため、20~25cm程度に立てることが望ましい。
- 耕耘時、ロータリーの爪に土が付かない程度の土壌水分状態で耕耘する。
- 畝立て後はビニルのべた掛けを行う。

病虫害防除

- 薬剤散布は、早朝もしくは夕方散布を基本とする（日中の高温時やポット培土乾燥時は薬害発生のリスクが高まる）。
- 本田にハダニ類、うどんこ病、炭そ病を持ち込まないために、早期作型では低温処理直前（最終葉かき後）の防除を徹底する。うどんこ病・炭そ病の罹病株は入庫しない。

台風対策

○事前対策

①育苗床

- 雨が多量に降った際、苗が浸水しないように排水対策を行っておく。
- かん水施設の破損等が予想される場合は、取り外して片付けておく。
- 苗の損傷を少なくするため、架台全体を寒冷紗で囲み固定する。
- 寒冷紗被覆を行っている育苗では、寒冷紗を取り除く。

②本ば

- 定植準備が終了しているほ場では、地表面の被覆ビニルが飛ばされないよう固定する。
- ハウスまわりの片付けを行っておく。
- タンクとボイラー本体の転倒防止のため、クイを打ちロープで固定する（ハウスに固定するとハウスごと転倒の恐れあり）
- タンクと本体の重油コックは閉めておく。

○事後対策

- 泥の付着や風傷による病害予防のため、殺菌剤で泥を洗い流すように散布する。

トピックス「高温・少雨に注意しましょう！」

7月9日の梅雨明け以降、高温・少雨傾向が続いています。今後も高温、少雨が予想されていることから、高温・乾燥による生育不良や病虫害の多発が懸念されますので、下記の事項に留意してください。

【育苗管理】

- 培土の水分状況を常に観察し、過乾燥で萎れないようにかん水する。（育苗床内の乾きやすい場所に特に注意）
- かん水は午前中主体で行うが、夕方は苗が萎れない程度に培土表面がやや乾くようにすること。
- 葉に高温による薬害を生じやすいので、夕方でも葉温が高い場合は、事前に葉水程度の少量の散水を行い、葉温を下げってから防除する。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！